

## 【取組内容】 情報活用能力（情報収集する力）の育成を意識した調べ学習

## ◎学校図書館にあるリソースを有効活用した調べ学習の推進

- ・調べ学習を行うときは、図書館に1人1台端末を持ち込んで行う。
- ・学習課題の解決に向けて、インターネットによる情報に偏ることなく、学校図書館に書籍、新聞などの内容とも比較しながら、課題解決により適した情報源を検討したり、情報の真偽を確かめたりすることで、ファクトチェックの習慣を身に付ける。


 【書籍を用いたファクトチェック例】

## 【生徒の姿】

様々な情報源に触れながら、それぞれの情報の正確さ、利便性などの違いを理解し、自分の課題解決にふさわしい手段を選択することができる。

地球と宇宙について、これまでの学習のまとめや興味のあることについて調べ、わかったことについてまとめてみよう。

**星団星雲について**  
**紛らわしい銀河**

ほかに恒星が集まる天体としては星雲がある。ただし、星雲とは本来、宇宙空間にある、ガスやチリのまとまりをいう。星雲では**惑星状星雲**、**超新星死骸**、**暗黒星雲**、**散光星雲**の4種類が特に恒星と関係が深い。惑星状星雲は、中心部にある恒星からの紫外線で、周囲のガスが輝いたものだ。そのガスは太陽質量の0.08～4倍までの恒星が赤色巨星となったときに放出されたものである。超新星死骸は、恒星の最後の爆発である超新星爆発のあとに残るもの。多くの場合円形に飛び散るが、かに星雲のように不規則な形をしたものも観測されている。

⇒残りの2種類は暗黒星雲と散光星雲である。これらは星の誕生と深い関わりがある。

**散光星雲**  
 へび座にあるM16わし星雲のこと。小型望遠鏡では、明るい散開星団の部分だけが観測される。ここでは、若い恒星がたくさん誕生している。

**惑星状星雲**  
 りゅう座方向約3000光年にあるNGC6543、通称キャッツアイ星雲。この星雲は、形成されてから1000年ほどと考えられている。青～紫色が最も高温の部分。

**超新星死骸**  
 1604年、ヨハネス・ケプラーが発見した新星による超新星死骸。銀河系内で発見された6つの新星のうちの1つ「ケプラーの新星」

**豆知識**  
 散開星団は、天の川に沿って分布している。

使った本 新星出版社 宇宙のしくみ 太陽系の星々から137億年彼方の宇宙の始まりまで

## 【教師の支援】

生徒の課題によって適した情報源が異なり、また生徒一人一人の活用能力に差があるため、きめ細かな声掛けを意識しながら、書籍の紹介等のサポートを行う。